



霞台小だより

ひばり

No. 684

令和5年9月1日 発行
青梅市立霞台小学校

校長 佐藤 広明

安全と安心の2学期に

校長 佐藤広明

本当に暑い暑い日が続いた今年の夏休みでした。それでも、体調に気を付けながらたくさんの経験や体験ができたことでしょう。この夏休みの経験と体験は、この先学校生活で大きな力となってくることだと思います。

8月初め、車で訪れた宮城県石巻の街は、12年前の姿が想像できない新しい街に生まれ変わっていました。しかし、そこに住む叔母の自宅はそのまま老朽化が進み、まわりは新しい店が数件立ち、後は空き地になっていた状況に、長い時間の経過を実感しました。

12年前の4月下旬、生活必需品を車に載せられるだけ載せ、被災した叔母のいる宮城県石巻市に向かいました。福島県に入るあたりで、下り高速道路を走っているのは自衛隊の救援車両ばかりになり不安になりました。仙台では、高速道路の海側が津波で全てやられてしまっている風景を見て愕然としました。

ここから1時間ほどの石巻の街は、泥色一色でした。商店街は閉まったまま、多くの人たちが復旧作業をやっている姿がありました。道路の脇には数知れずの壊れた車が放置されたまま、あるところでは、津波で流された車がうず高く山となっている場所も目撃しました。そして、海岸近くの門脇小学校は真っ黒に焼け焦げた姿でした。まわりは全てが黒い瓦礫の山で絶望的な風景が広がっていました。

着いた叔母の自宅は1階部分が全て水没で全壊の判定、しかし避難できず自宅の2階で生活していたため、十分な物資がありませんでした。持ってきた物資を下ろし、丸1日できる作業をして、後ろ髪を引かれながら石巻を後にしました。あまりの現実に最後まで夢を見ているようでした。

震災遺構となった門脇小学校を訪ねました。12年前に見た門脇小学校がそのまま目の前に現れました。火災により無残に焼け落ちている教室が大半でしたが、一部当時のままの姿で残っている教室もありました。時間が止まり埃まみれになった教室にカーテンが風に揺れ、何ともいえない気分になりました。当時学校にいた児童は全員無事避難できたのですが、校舎に火が迫り、校内に避難していた住民は、教員のとっさの行動で教室にあった教壇を校舎2階から裏山に渡すことで、全員裏山に無事避難することができたそうです。

普段の訓練と教員の素晴らしい行動で大きな危機を乗り越えることができたのです。私たちも同様な意識を常にもっている必要があると再認識しました。

関東大震災から100年目の今年、青梅も災害とは無縁ではありません。これから始まる長い2学期を、教職員が一丸となり責任をもって安全にそして充実した毎日にしていけるよう子どもたちとともに進んでいきます。

2学期もどうぞよろしくお願ひします。